

# 新県立図書館の開館に向けて

岩手県立図書館長 小原 公平



## 1. 移転、開館の準備

今年4月から県立図書館に勤務することとなった。

県立図書館は、盛岡駅西口の「いわて県民情報交流センター」(愛称アイーナ)に移転し、来年5月8日に新館オープンの手配となっている。

新館への移転により現館の課題である老朽化や狭隘化等の解消はもちろんのこと、これを契機に運営面も改善し、より多くの県民に親しまれ、利用される図書館にしていかなければならない。

年度当初から移転関係業務が本格化しており、これまで図書資料の確認、搬出搬入計画の作成、新たな利用要綱等の各種規程類の整備などを進めてきた。

今後、搬出搬入・配架等の具体的な作業に着手し、これと並行しながら各種システムの点検・調整や職員・スタッフの教育訓練等の開館に向けた諸準備に取り組んでいく予定である。

こうした作業等のため、今年12月から約5ヶ月間は、休館にせざるを得ず、利用者の皆様にはご不便をおかけするが、ご理解を賜りたい。

## 2. 新館の配置と管理運営

新館は、アイーナ(地下1階地上9階)の1・2階に書庫や事務室等を、3・4階に開架閲覧室や視聴覚コーナー等を配置する。開館時の蔵書数は62万5千冊とするほか、現館に比べて面積が約2.9倍、閲覧座席数が約3倍(300席)と格段に広がる。また、映画上映もできる視聴覚室やマルチメディアブースを設けるほか、管理運営面でも、開館時間の延長や開館日数を増やすなど、利用者の多様なニーズに対応していくこととしている。

アイーナには、県立図書館のほか視聴覚障害者情報センターをはじめ、NPO活動、国際交流、男女共同参画、高齢者活動交流、子育てサポートなどの各センターが設置される。県立図書館は同じビル内のこうした各センターとも連携し、県民の様々な活動を支援していきたいと考えている。

## 3. 県立としての機能発揮

県立図書館は、広く県民の利用に供するために設置された公の施設である。

図書資料貸出しの利用状況を地域別にみると、盛岡

市及びその周辺4町村で全体の9割強となっており、県内各地域からの利用拡大が課題である。新館は交通機関の便が良く利用しやすい場所となるが、広大な県土を考慮すれば、市町村立図書館との連携が不可欠である。住民に身近な市町村立図書館との連携協力による貸出し等を一層拡充し、その利用を通じて県立図書館のサービス提供に努めていく必要がある。市町村立図書館の支援は県立図書館の基本的な機能でもあり、新館では支援室を設けるなど積極的に対応していきたい。

また、県立図書館は県内の図書館資料の保存センター(デポジット・ライブラリー)的な役割も果たしていく必要がある。新館の収蔵能力が153万冊(現館の約3.7倍)と拡充されることもあり、この際、デポジット・システムのあり方についても検討を進めていきたい。

近年、各種の実態調査により子どもの読書離れが指摘されている。インターネットの普及や、生活環境の変化などが要因とされており、学校はもちろんのこと、家庭や地域も含めた広がりのある取組みが求められている。ここ数年、県内各地で読書ボランティア活動が活発化してきている。このような取組みを市町村立図書館が支え、県立図書館がそれをバックアップすることにより、県内全域で様々な活動が活発に展開されるような仕組づくりが大切だと思う。

新館では、児童コーナーの閲覧スペースを大幅に増やすほか、授乳室のそばにカーペット敷きのふれあいコーナーと、本の読み聞かせを行うお話室を設置する。親子で、あるいはグループ等で利用することにより、子ども達が本に親しむきっかけとなり、読書習慣が身についていくことを期待している。ある出版社の調査によれば読書離れは子どもより親の方だというデータもあり、一石二鳥の効果も期待できそうである。

## 4. 県民の参画

県立図書館では現在21人の方がボランティア登録をし、本の補修、読み聞かせなどを行っている。その活動により当館のサービスや業務内容が豊かなものとなっている。

図書館の管理運営は、利用者の視点にたって行うということに尽きると思うが、そのためにも新館では、ボランティアやNPO等できるだけ多くの県民の参画を得るようにしていきたい。